

令和元年度 神奈川総合高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
1 法令遵守意識の向上（公務外非行の防止、職員行動指針の周知・徹底を含む） 【必須事項】	学校教育活動に対する県民の信頼と信用を損なうことのないように勤務時間外や職場外においても公務員として自覚し、社会人としての公衆マナーやモラルを踏まえた言動をとる。	・不祥事防止パートナーシップ校として、10月に行政課から講師を招き、具体的な事例をもとに、全職員で研修会を実施した。 ・身近な場面での不祥事防止対策について協議することで日常業務における不祥事防止意識が高まった。
2 わいせつ・セクハラ行為の防止 【必須事項】	不適切な携帯電話の使用を未然に防止するとともに、スクールセクハラの根絶に取り組む。	・収集した個人情報の適正な使用及び人権に配慮した指導について繰り返し周知徹底し、不祥事防止に取り組んだ。
3 体罰、不適切な指導の防止 【必須事項】	生徒の人権を尊重し、真摯な態度で教育的に配慮した丁寧な指導に当たる。	・体罰や暴言など生徒の人権侵害に係る事例を教職員が共有することで当事者意識を高めた。 ・生活支援グループを中心に、学校全体で日常的に生徒が相談できる体制作りに取り組んだ。
4 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止 【必須事項】	様々な業務執行に際して、教職員の当事者意識の高揚やシステムの適正化を図り、事故を未然に防止する。	・調査書や推薦書については、作成・発行ごとのチェック体制を再構築した。 ・発行文書の処理には、色付きのクリアケースを用いることを徹底し、他の文書と混在しないよう具体的な対策を講じた。
5 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	個人情報等を適正に管理し、情報の漏洩や流出を未然に防止する。	・定期テストごとに解答用紙の回収、誤廃棄の防止等の注意喚起を行い、学校全体で徹底した。 ・生徒相談、成績等の会議後は資料を確実に回収し廃棄した。
6 会計事務等の適正執行	私費会計の適切な執行について校内研修の充実に工夫を凝らし、複数チェックの徹底により事故の発生を未然に防止する。	・5月に会計事務マニュアルに基づき会計担当者を対象に研修を行った。 ・次年度以降は、会計事務徹底のため全職員を対象に校内研修を行う。
7 入選業務の事故防止	前期・後期の入学者選抜における公平・公正さを意識し、事故・不祥事のない入学者選抜業務を遂行する	・前期・後期それぞれの選抜基準と業務を全職員で入念に確認し共有した。 ・研修会やシミュレーションをとおしてあらゆる事態への対応を共有し公正な入学者選抜を遂行した。

○ 令和元年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和2年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

令和元年度不祥事防止パートナーシップ校の取組で、行政課からの講師による研修会を開催し、組織的に意識向上を図ることができた。日常の事故・不祥事防止会議では、管理職や担当職員から一方向の説明になることが多く、資料による情報共有には利点がある一方で、日常の多様な業務における協働性や事故・不祥事を未然に防ぐための気づきの促進のためには、職員間の協議や対話が効果的である。そこで、研修会では、職員の協議型による事例研究をプログラムに加えて実施した。研修会のために一定時間を確保したことと、全職員が同一のテーマについて日常の業務を踏まえて協議したことで相互の考えや気づきを共有でき、事故・不祥事未然防止への意識の向上につながった。

次年度の重点項目として、単位制システムにおける成績処理、調査書等作成と推薦業務について、より分かりやすく効率的な業務フローとスケジュール設定を検討する。また、私費会計処理の基礎知識の確認、余裕をもった業務遂行、中間決算に基づき適正な繰越金となるような調整等を行う。入学者選抜については、令和3年度開設の舞台芸術科の初年度入試選抜となるため、学校全体の入試選抜マニュアルを見直し適正な業務遂行を図る。